

事務事業名	21226 道路橋りょう総務事務費													
担当組織	都市整備部						道路河川課				担当	道路管理・維持担当		
組織コード	H30	20	09	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	08	02	01	01	01	記入日	平成30年06月06日
	H29	20	09	00		H29	01	08	02	01	01	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ		実施計画候補
基本目標	05 快適で過ごしやすいまち	○ 対象 ● 対象外
分野	03 道路	
施策	53 安全な橋梁の整備	
事業期間	平成17年度～平成32年度	
根拠法令 通達等		関連計画 施政方針
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの	
対象		
事業目的	※予算編成用シート（指標等未設定）	
事業内容	※予算編成用シート（指標等未設定）	
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()	

2. 実施結果

事業内容	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	
	執行額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)	
事業費	1,090	1,642	1,622	1,642	1,642	
財源内訳						
国庫支出金	0	0	0	0	0	
県支出金	0	0	0	0	0	
起債	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	
一般財源	1,090	1,642	1,622	1,642	1,642	
人件費	344.85	344.85	344.85	344.85	344.85	
投入人員						
常勤職員	0.05人	0.05人	0.05人	0.05人	0.05人	
非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人	
事業費+人件費	1,435	1,987	1,967	1,987	1,987	
目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績
活動①						-
活動②						-
成果①						-
成果②						-
目標達成状況の分析	- : 未設定 <判断理由> 橋梁事務事業全般に亘る庶務的業務であり、事務事業評価にそぐわないため。					

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特になし
見直しの効果	特になし

5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 橋梁事業全般を円滑に推進するため必要な経費であり、大きな見直しはなく、現状のまま継続する。
今後の取組方針	橋梁事業全般を円滑に推進するため必要な経費であり、大きな見直しはなく、現状のまま継続する。

事務事業名	27663 橋梁整備事業													
担当組織	都市整備部						道路河川課			担当		道路改良担当		
組織コード	H30	20	09	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	08	02	03	01	01	記入日	平成30年06月06日
	H29	20	09	00		H29	01	08	02	03	01	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ												実施計画候補		
基本目標	05	快適で過ごしやすいまち										● 対象		
分野	03	道路										○ 対象外		
施策	53	安全な橋梁の整備												
事業期間	平成20年度～平成32年度													
根拠法令 通達等	道路法 道路構造令 道路橋示方書 埼玉県福祉のまちづくり条例					関連計画 施政方針		戸田市第4次総合振興計画 戸田市都市マスタープラン 戸田市環境基本計画						
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの													
対象	徒歩、自転車、自動車等で橋梁を利用する通行者及び沿道利用者													
事業目的	河川によって分断されている地域を結ぶために、パイプの役目を果たす橋梁を整備することにより、地域間交流の促進、通勤・通学時の利便性の向上、災害時の交通連絡網（緊急輸送路）として、橋梁利用者の安全性、快適性の確保を図る。													
事業内容	既存橋梁の補修、ユニバーサルデザインへの対応、道路橋定期点検													
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()													

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
	事業費		37,420	102,491	103,771	65,600	84,300	
	財源内訳	国庫支出金	0	24,766	16,800	15,100	20,300	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	49,500	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	37,420	28,225	86,971	50,500	64,000	
	人件費		6,552.15	6,552.15	6,552.15	6,552.15	6,552.15	
	投入 人員	常勤職員	0.95人	0.95人	0.95人	0.95人	0.95人	
		非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人	
事業費+人件費		43,972	109,043	110,323	72,152	90,852		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績
	活動 ①	橋梁補修実施数	橋	補修実施数		1	1	6
						1	6	-
	成果 ①	橋梁補修実施率	%	補修実施数÷要補修橋梁 数(40橋)		-	3	25
						-	15	-
成果 ②							-	
目標達成 状況 の分析		A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 「戸田市長寿命化修繕計画」に基づき予防保全的な維持管理を実施している。平成28、29年度の定期点検結果に基づき、計画の改定を行ったことから、指標を一部変更したが、活動・成果ともに達成している。						

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 橋梁の長寿命化に向け、老朽度、損傷度に優先順位をつけ、順次予防保全的な補修を実施している。また、補修作業と同時にユニバーサルデザインに配慮した整備を行うことにより、誰もが安心して利用できるよう努めており、施策の目標に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費の精査が十分になされている。
	B	B	A	<判断理由> 本業務は、県の積算基準、単価に基づき、積算し、入札により受注者を決定している。また、予防保全的な修繕により、長寿命化を図るとともに、予算の平準化を努めている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 戸田市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、順次補修を進めており、計画についても最新の点検結果を踏まえ、改定を行う等、事業手法は適正な内容である。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	A	A	A	<判断理由> 橋梁は、市内全域に存在し、市民の日常生活の中で、利用されている。また、災害時の避難路としても重要な施設であり、受益・負担の公平性は適正である。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特になし。
見直しの効果	特になし。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1現状で継続 <input type="radio"/> 2拡大して継続 <input type="radio"/> 3縮小して継続 <input type="radio"/> 4他事業と統合 <input type="radio"/> 5休止 <input type="radio"/> 6その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 橋梁は、市民の日常生活を支えるだけでなく、災害発生時やその後の復旧作業における重要な交通連絡網となる。 本市が管理する橋梁は、竣工後30年を経過する橋梁が約7割を占めており、経年変化により損傷・劣化している箇所が随所に見受けられる状況となっている。これらの橋梁は順次、竣工後50年を迎えることになり、急速に高齢化橋梁が増大することとなる。 「橋梁」は利用できて当たり前の道路施設であるが、無くなってしまうとその影響は大きく適切に維持管理することが重要であるため事業は継続する。
今後の取組方針	「戸田市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、順次補修設計、補修工事、橋梁点検を実施していくとともに、補修だけではなく、都市景観や環境面に配慮して基盤整備の魅力を引き続き高めていきたい。また、災害発生時において重要な交通路の1つとなる橋梁は、ライフラインを確保する上で重要な役割を担うことから、橋梁の耐震補強についても推進していく。また、技術力向上のため積極的に研修に参加するなど、人材を育成することも求められる。